

JA新はこだて「プレミアムふっくりんこ」について



- ・ JA新はこだて「プレミアムふっくりんこ」は、檜山地区北部にある、「せたな町」で生産している**特別栽培米**の「ふっくりんこ」です。
- ・ さらに「**ふっくりんこ蔵部・サミット基準品**」と「**高整粒仕上げ（整粒80%）**」を出荷基準としており、全道の「ふっくりんこ」のうち僅か0.3%※程の、まさに「プレミアム」で希少な米です。

※令和6年産米ホクレン出荷契約面積より

プレミアムふっくりんこ（特裁米） 生産概要

部会名	せたな町水稻部会
生産者	8名（特別栽培米生産者数）
出荷基準	特別栽培米、精米蛋白：サミット基準品 整粒80%以上 施設調製にて異物除去
品種	ふっくりんこ
農薬使用回数	11回（慣行対比50%減）
化学肥料窒素施用量	5kg以下（慣行対比50%減）
生産面積	13ha（令和5年産米）



「プレミアムふっくりんこ」は函館地域のスーパーで販売しているほか、豪華な朝食で有名な函館市内のホテルでも朝食に採用頂いています！

施設集荷について

- ・ プレミアムふっくりんこの原料は、カントリーエレベーター「北の白虎ライスターミナル」にて全量施設受入しており、施設調製による乾燥・品位の均質化と、異物の除去を徹底し、安全で品位の安定した米を出荷しています。
- ・ また、当施設の粳貯蔵設備においては、大型貯蔵施設と異なり、小型サイロにより攪拌しながら粳を貯留するため、水分値や品質が均質化され、貯蔵管理しやすい特徴があります。
- ・ 現在は、せたな町若松地区の生産者が取り組んでおり、会津藩からの入植をルーツとしていることが施設名の由来となっております。



耕畜連携の取組み

- ・ せたな町水稻部会では、環境に配慮した持続可能な農業を営むためには、地域の畜産農家との連携が重要であることから、**耕畜連携による地域循環型の農業を推進**しております。
- ・ 稲作の副産物である**稲わら**を**酪農畜産業**へ活用する一方、**牛糞**を**たい肥化**し、**一部農家で使用**しております。
今後は更なる相互連携を深め、循環型農業を目指してまいります。



みどりの食料システム戦略への対応

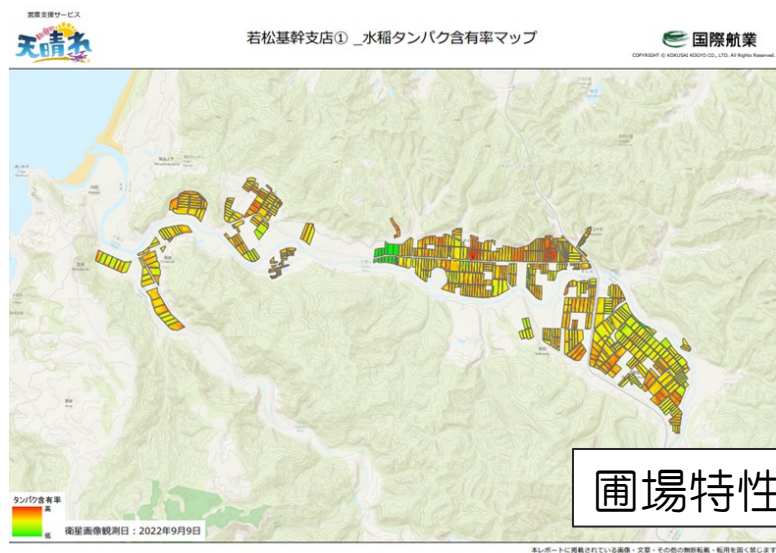
・ドローン防除の導入

当部会では、防除用ドローンの導入を進めており、コスト低減と化石燃料の削減に繋げております。

・土壌診断、リモートセンシングによる施肥の見直し

せたな町水稻部会では、施肥設計の見直しのため、各生産者に3年に一度は各圃場の土壌診断を実施するよう推進しております。

また、圃場リモートセンシング「天晴れ」を活用し、各生産者に圃場解析結果を提供し、圃場別の特性を可視化することで、過剰な施肥の削減、収穫作業の効率化、翌年の品種別の圃場選定に活用しております。



圃場特性の可視化

可視化メリット

- ・収穫作業の効率化
- ・品位に応じた刈取による品質均質化
- ・肥料削減
- ・品種別の圃場選定

J-クレジットの活用・温室効果ガス削減への取り組み

- ・せたな町は2022年3月、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明し、認定されました。
- ・農業現場としても、環境に配慮した米作りとタンパクの低い良食味な米の生産を両立するため、稲わらの搬出もしくは秋鋤込みの徹底に加え、中干しの延長（**J-クレジットの活用**）を実践しております。

秋鋤込みの励行と中干の延長により、**温室効果ガスの削減**が目指すとともに、稲わら成分の分解促進によって**低蛋白米の安定出荷**に繋がります。

- ・「プレミアムふっくりんこ」の生産では、**中干の延長・稲わら搬出・秋鋤き込み100%※**を実現しています。

※収穫後の天候によって、全量の実行が困難な年もあります。

「プレミアムふっくりんこ」は

100%

稲わら搬出or秋鋤き込み



時代のニーズに応えつつ、さらなる高品位の米を出荷するべく、当地区では「プレミアムふっくりんこ」の取組みにますます磨きをかけていきます。
是非ご愛顧くださいますよう、よろしくお願いいたします。